

静岡・愛知でリニア調査 党議員団

リニア建設 発生土でダム化の危険



本村伸子、島津幸広両衆院議員、辰巳孝太郎参院議員は、14、15日、リニア新幹線を考える静岡県民ネットワークの調査に同行しました(写真)。

一行はトンネル工事や発生土置き場に予定される南アルプスの燕沢などを視察。県民ネットの林克共同代表は「高さ50メートル、長さ1キロにわたり発

生土を積み上げるといわれる」と説明、対岸で地滑りの跡もあり、崩れた時の問題などを指摘しました。

島津氏は「調査すればするほど心配、不安が尽きない」。本村氏は「静岡駅から車で4時間もかかり、環境が守られているかチェックするのも大変。データを開示させ丁寧な説明をすべきです」と話していました。

残土、亜炭鉱跡、用地買収：問題山積

党国会議員団「リニア中央新幹線問題プロジェクトチーム」は25日、愛知県内のリニア建設関連現場を調査しました。本村伸子、畑野君枝両衆院議員と辰巳孝太郎参院議員らを地元の地方議員らが案内しました。

ランドキャニオン」を訪れました。

浅井ことみ瀬戸市議は「ダンプが集中することで振動や騒音が心配。運ばれてくる土が汚染されてないか検証も必要」と話しました。

県内全ルートがトンネルで建設されるリニア工事では、640万立方メートルの発生残土が出ます。調査団は、県珪砂(けいしや)鉱業協同組合が「十分受け入れられる」と残土置き場に「立候補」している瀬戸市の、通称「瀬戸グ



リニア駅が地下に建設される予定地で、江上ひろゆき名古屋市議から説明を受ける畑野、本村、辰巳議員

春日井市西尾町(さいおちよう)の農地には3・5万平方メートルの保守基地が予定されています。農業委員の川地隆正氏は「近くの内津(うつつ)川は大雨で決壊した。農地の保水機能がなくなったらどうなるのか。やっと説明会が決まったばかりだ」と語りました。

西尾町にはオオタカが営巣しており、影響が心配されます。

同市内の不二ガ丘地区の地下には亜炭鉱跡が広がっており、今年3月に公園で地面が直径5m、深さ2mにわたって陥没した跡地も調査。陥没を心配する住民と調査団が懇談しました。

計画に反対する女性は、ボ

来たJR職員が「国が要請したものだから同意してほしい」と強弁していたと語りました。議員団は「住民が声を上げることが国会での追及の力になる」と激励しました。

調査団は名古屋駅前を見学し、買収対象の地権者から「代々住んできたこの土地を離れたくない。調査は断っている」などの声を聞き取りました。

島津幸広、穀田恵二、宮本徹の各衆院議員秘書と井上哲士参院議員秘書も同行しました。



春日井市の亜炭鉱跡が原因とみられる陥没の現場を視察する本村、畑野、辰巳議員(左から)